

就職演習

授業の目的・概要

本授業は、動物業界を含む就職活動に必要な基礎力と実践力を身につけ、社会人としての適応力を養うことを目的とする。自己分析や価値観の整理を通して自身の強みや適性を理解し、自己 PR や志望動機の作成によって表現力を高める。また、履歴書作成や応募書類対策、面接練習、グループディスカッションを通じて、選考過程に対応できる実践的能力を育成する。さらに、ビジネスマナーや一般常識の習得を通じて、企業が求める人物像への理解を深め、主体的に就職活動へ取り組む姿勢と社会人基礎力の向上を図る。

科	生命科学科	教員	岡田 有沙
コース	ショップゼミ	教員の実務経験	動物関連産業 20 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・自己理解を深める
自分の強み・弱み、興味、価値観を整理して、目指す職へのビジョンを明確にすることができる。
- ・就職活動の基本を学ぶ
企業研究の方法、マナーなどを身に付けることができる。
- ・就職後に必要な知識を学ぶ
労働について理解することができる。

授業計画

- 第 1 回 面接を意識した自己紹介
- 第 2 回 就職への道
- 第 3 回 自己分析①
- 第 4 回 価値観①
- 第 5 回 価値観②
- 第 6 回 求めるもの①
- 第 7 回 求めるもの②
- 第 8 回 自己分析②
- 第 9 回 自己アピール力・他己分析
- 第 10 回 強みとスキル
- 第 11 回 応募書類・書類審査について

- 第 12 回 自己 PR 作成①
- 第 13 回 自己 PR 作成②
- 第 14 回 志望動機の書き方
- 第 15 回 自宅課題：履歴書の記入
- 第 16 回 試験返却・試験の振り返り
- 第 17 回 就活進捗状況確認①
- 第 18 回 就活進捗状況確認②
- 第 19 回 面接①
- 第 20 回 面接②
- 第 21 回 面接③
- 第 22 回 グループディスカッション①
- 第 23 回 グループディスカッション②
- 第 24 回 会社に求められる能力
- 第 25 回 ビジネスマナー ～社会人になったら～①
- 第 26 回 ビジネスマナー ～社会人になったら～②
- 第 27 回 ビジネスマナー ～社会人になったら～③
- 第 28 回 ビジネス・一般常識①
- 第 29 回 ビジネス・一般常識②
- 第 30 回 ビジネス・一般常識③

授業の方法

演習

教材

必要に応じてプリントを配布

評価の方法

期末試験 60%、課題への取り組み 20%、平常点 20%（出席率、授業態度等）で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内で出される課題をノートで提出

実務経験と授業科目の関係

店長として店舗運営に携わり、採用面接官として多数の人材選考を経験。

2026 年度

「企業が求める人物像」や「面接で評価されるポイント」に関する知見を活かし、
学生一人ひとりの強みを引き出す。

プレゼンテーション概論

授業の目的・概要

本授業は、動物業界をはじめとする様々な分野で必要となる「伝える力」を身につけることを目的とする。プレゼンテーションの基本構成、分かりやすい話し方、資料作成の方法を学び、相手に正確かつ魅力的に情報を伝える力を養う。また、テーマ設定や情報収集、スライド作成、発表練習を通して論理的に考え、整理して表現する力を身につける。さらに、グループ発表や振り返りを通じて、協調性や改善力を高め、実践的な発表スキルの向上を目指す。

科	生命科学科	教員	伊藤
コース	ショップセミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次生	年間単位数	2 単位

目標

- ・聞き手に分かりやすく情報を伝えるプレゼンテーションの基本技術を身に付けることができる。
- ・目的に応じて情報を整理し、構成を考えて発表内容を作成することができる。
- ・スライドや資料を活用し、視覚的に分かりやすい発表を行うことができる。
- ・他者の発表を参考にしながら改善点を見つけ、表現力を高めることができる。

授業計画

第 1 週	オリエンテーション（授業の進め方・評価方法）
第 2 週	プレゼンテーションとは何か
第 3 週	伝える力の基本
第 4 週	話の組み立て方①（導入・結論）
第 5 週	話の組み立て方②（本論）
第 6 週	分かりやすい説明のコツ
第 7 週	声の出し方・話し方の基本

第 8 週	表 情 と ジ ェ ス チ ャ ー
第 9 週	聞 き 手 を 意 識 す る 話 し 方
第 10 週	テ ー マ 設 定 の 方 法
第 11 週	情 報 の 集 め 方
第 12 週	資 料 の ま と め 方
第 13 週	ス ラ イ ド 作 成 の 基 本 ①
第 14 週	ス ラ イ ド 作 成 の 基 本 ②
第 15 週 発表練習①	
第 16 週	オ リ エ ン テ ー シ ョ ン (後 期 内 容 説 明)
第 17 週	構 成 の 見 直 し と 改 善
第 18 週	分 か り や す い ス ラ イ ド 作 成
第 19 週	発 表 原 稿 の 作 成
第 20 週	話 す 練 習 と 時 間 調 整
第 21 週	グ ル ー プ 発 表 準 備 ①
第 22 週	グ ル ー プ 発 表 準 備 ②
第 23 週	リ ハ ー サ ル ①
第 24 週	リ ハ ー サ ル ②
第 25 週	本 番 発 表 ①
第 26 週	本 番 発 表 ②
第 27 週	発 表 の 振 り 返 り
第 28 週	改 善 点 の 整 理
第 29 週	応 用 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン
第 30 週 総まとめ・最終発表	

授業の方法

演習形式を中心に進めていき、グループワークやディスカッションをする機会も設けていく。

教材

特に指定はしないが、必要な教材は適宜授業中に配布していく。

評価の方法

成果発表 60%、授業への参画 40%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、発表テーマに関連する情報を調べ、要点を整理し、自分の考えをまとめる準備を行う。また、構成や話す内容を事前に考えておく。事後学習では、授業で行った発表や指導内容を振り返り、改善点や課題を整理することで、次の発表に向けて表現力や構成力の向上を図る。

実務経験と授業科目の関係

実際の現場で求められる「分かりやすく伝える力」や「状況に応じた説明力」を具体的に学ぶことができる。実体験に基づいた指導により、実践的なプレゼン力の向上につながる。

経営概論

授業の目的・概要

本授業は、動物関連業界における店舗運営や事業活動に必要な経営の基礎知識を理解し、実践的な経営感覚を養うことを目的とする。経営理念や経営戦略、環境分析、SWOT 分析を通して企業経営の基本的な考え方を学ぶとともに、成長戦略や事業ポートフォリオを通じて企業発展の仕組みを理解する。また、売上構造や KPI を用いた数値管理の基礎を学び、分析力や改善提案力を身につける。さらに、マーケティングの基本概念、STP 分析、4P、顧客価値などを学び、顧客視点に立った販売戦略や商品企画について考察する。グループディスカッションを通じて、課題解決力や協働力の向上も目指す。

科	生命科学科	教員	津田
コース	ショップゼミ トレーニングゼミ	教員の実務経験	ペットショップ歴 6 年
対象年次	2 年	年間単位数	2 単位

目標

前期

- ・経営戦略を学習し、企業活動・経営活動の意義・意味を理解する。
- ・企業活動の方向性、成長戦略、競争戦略 の諸理論の理解を通して、現状を把握し、その状況を打開するための下地を構築することができる。

後期

- ・マーケティングを学習し、それらを実施していくうえでの重要ポイントの網羅と、それぞれのポイントが有機的に連携する重要性を理解する。
- ・経営や業務遂行のための実践的な知識・思考を身に付けることができる。

授業計画

- 1回 経営戦略について(目標・授業・評価方法説明)
- 2回 経営戦略(経営理念、企業のこだわり、理念と戦略)
- 3回 経営戦略(経営理念、理念と業務、理念と優先順位)
- 4回 経営戦略(環境分析、マクロ環境とミクロ環境、日本特有の環境)
- 5回 経営戦略(環境分析、SWOT 分析)
- 6回 成長戦略(成長ベクトル、企業成長の過程)
- 7回 成長戦略(多角化戦略、さらなる成長のために)
- 8回 成長戦略(事業ポートフォリオ、事業と資金の循環)
- 9回 成長戦略(事業ポートフォリオ、経験の成果と製品の循環)
- 10回 成長戦略(内部成長方式と外部成長方式、自己成長、提携)
- 11回 売上管理(売上の構造理解、売上＝客数×客単価の考え方)
- 12回 売上管理(客数・客単価の分析方法、改善の考え方)
- 13回 売上管理(簡単な数値計算と目標設定、KPI の基礎)
- 14回 売上管理(演習：売上データを用いた分析と改善案の検討)
- 15回 前期の振り返り
- 16回 マーケティングについて(基本概念と目的)
- 17回 マーケティングと販売の違い(役割の違いと関係性)
- 18回 一般的なマーケティングの流れ(市場調査～販売までのプロセス)
- 19回 マーケティング(STP 分析)
- 20回 マーケティング(水平思考)
- 21回 グループディスカッション(成功している店舗の特徴検討まとめ)
- 22回 グループディスカッション(売上向上のための施策検討まとめ)
- 23回 マーケティング(顧客価値について)
- 24回 マーケティング(4P について)
- 25回 マーケティング(バリュープロポジションについて)
- 26回 マーケティング(普及率 16%について)
- 27回 グループディスカッション(ターゲット設定と商品企画の検討)
- 28回 グループディスカッション(4P 用いた販売戦略の検討)
- 29回 グループディスカッション(グループ内での意見整理と全体共有)
- 30回 1 年の振り返り

授業の方法

座学を中心に基礎知識を学び、理解を深めるためにグループディスカッションを取り入れる。ディスカッションでは具体的な事例をもとに意見交換を行い、実践的な思考力の向上を図る。

教材

なし

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

なし

実務経験と授業科目の関係

ペットショップスタッフとしての実務経験を基に、ペット業界における店舗運営やサービス提供の仕組みについて指導を行う。ペットビジネスの現状や業界の特徴、経営の基本的な考え方について学び、実際の現場での経験や事例を交えながら、経営やビジネスの基礎知識を理解できるよう指導する

接客実践

授業の目的・概要

本授業は、動物関連施設やペット業界における接客業務の基礎知識と実践力を身につけ、顧客対応力を養うことを目的とする。接客の基本となる第一印象や表情、カーミングシグナルの理解を通して相手の気持ちを読み取る力を育成する。また、売り場の見方や商品配置、色彩の効果などを学び、顧客視点に立った空間づくりや販売促進の方法を理解する。さらに、声かけや電話対応、POP 作成、イベント企画などの実践的な演習を通じて、商品やサービスの魅力を効果的に伝える表現力を養う。クレーム対応や倫理的な販売についても学び、信頼される接客技術の習得を目指す。

科	生命科学科	教員	岡田 有沙
コース	ショップゼミ	教員の実務経験	動物関連産業 20 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

- ・人と接する中で意識すべきことを知り、接客に役立てることができる。
- ・売り場を知り、効果的な販売を知ることができる。
- ・POP について理解し、活用できるようになる。
- ・イベント企画の流れを知ることができる。

授業計画

- 第 1 回 自己紹介
- 第 2 回 授業の説明・導入
- 第 3 回 接客とは（人と接するということ）
- 第 4 回 第一印象
- 第 5 回 人の表情
- 第 6 回 人のカーミングシグナルから読み取る相手の気持ち
- 第 7 回 しょっぱい（売り場を見る）お客様の目線
- 第 8 回 グループワーク（しょっぱいを見て）
- 第 9 回 色を与える印象
- 第 10 回 人の脳と接客の関係
- 第 11 回 売場作成について（配置・並べ方）
- 第 12 回 販売のコツ・声かけ・呼び込み・ビラ配り

- 第 13 回 店内での受付
- 第 14 回 電話での予約受付・電話での案内
- 第 15 回 前期の振り返り
- 第 16 回 しょっぱい（売り場を見る）店員の目線
- 第 17 回 年間行事・効果的なセールの開催法
- 第 18 回 商品の魅力
- 第 19 回 POP とは
- 第 20 回 POP（文字練習）①
- 第 21 回 POP（文字練習）②
- 第 22 回 POP（作成のコツ）
- 第 23 回 POP 作成①
- 第 24 回 POP 作成②
- 第 25 回 フォトブースの活用
- 第 26 回 効果的なイベント開催法①
- 第 27 回 効果的なイベント開催法②
- 第 28 回 愚直な販売・クレーム対応
- 第 29 回 後期振り返り
- 第 30 回 1 年間の総まとめ

授業の方法

演習

教材

必要に応じてプリントを配布

評価の方法

期末試験 60%、課題への取り組み 20%、平常点 20%（出席率、授業態度等）で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内で出される課題をノートで提出

実務経験と授業科目の関係

接客業における実務経験を踏まえ、実際の現場で必要とされる接客マナーやコミュニケーション能力を重視した指導を行う。演習を通じて実践力の向上を図る。

インターンシップⅡ

授業の目的・概要

本授業は、動物業界への就職を目指す学生が、インターンシップを通じて実際の職場環境を体験し、専門知識・技術の実践力を養うことを目的とする。動物病院、ペットショップ、トリミングサロン、ペットホテル、動物福祉施設などの現場において、動物の飼養管理や健康観察、接客対応、衛生管理、チームでの業務遂行などを体験し、職業人として求められる責任感やコミュニケーション能力を身に付ける。また、現場での体験を通じて自己の適性や課題を把握し、将来の進路選択や就職活動に役立てることを目指す。事前指導では職業倫理や安全管理について学び、実習後には振り返りと成果報告を行うことで、学習成果の定着とキャリア形成につなげる。

科	生命科学科	教員	林
コース	全ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物業界の現場における業務内容や役割を理解し、基本的な業務を適切に実践できる。
- ・動物の飼養管理、健康観察、衛生管理などに関する実践的な知識・技術を身に付ける。
- ・職業人として必要なビジネスマナー、コミュニケーション能力、協調性を身に付け、円滑に行動できる。
- ・インターンシップで得た経験を振り返り、自身の適性や課題を把握するとともに、将来の進路選択や就職活動に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 インターンシップ概要説明・目的理解・受入先の紹介
- 第 2 回 ビジネスマナー・職業倫理・安全管理・注意事項説明
- 第 3 回 インターンシップ① 施設理解とオリエンテーション
- 第 4 回 インターンシップ② 施設見学と業務内容の把握
- 第 5 回 インターンシップ③ 接客・来客対応の補助
- 第 6 回 インターンシップ④ 電話対応・受付業務の補助
- 第 7 回 インターンシップ⑤ 施設内清掃・衛生管理業務
- 第 8 回 インターンシップ⑥ 飼育環境の整備と安全確認
- 第 9 回 インターンシップ⑦ 動物の健康観察と記録
- 第 10 回 インターンシップ⑧ 給餌・給水業務の補助
- 第 11 回 インターンシップ⑨ 動物の保定補助
- 第 12 回 インターンシップ⑩ 日常ケア業務の補助
- 第 13 回 インターンシップ⑪ 施設備品・消耗品管理

第 14 回	インターンシップ⑫	顧客対応・コミュニケーション実践
第 15 回	インターンシップ⑬	チーム業務への参加
第 16 回	インターンシップ⑭	担当業務の実践①
第 17 回	インターンシップ⑮	担当業務の実践②
第 18 回	インターンシップ⑯	担当業務の実践③
第 19 回	インターンシップ⑰	担当業務の実践④
第 20 回	インターンシップ⑱	担当業務の実践⑤
第 21 回	インターンシップ⑲	担当業務の実践⑥
第 22 回	インターンシップ⑳	担当業務の実践⑦
第 23 回	インターンシップ㉑	担当業務の実践⑧
第 24 回	インターンシップ㉒	担当業務の実践⑨
第 25 回	インターンシップ㉓	担当業務の実践⑩
第 26 回	インターンシップ㉔	担当業務の実践⑪
第 27 回	インターンシップ㉕	担当業務の実践⑫
第 28 回	インターンシップ㉖	担当業務の実践⑬
第 29 回	インターンシップ㉗	担当業務の実践⑭
第 30 回	インターンシップ㉘	担当業務の実践⑮
第 31 回	インターンシップ㉙	担当業務の実践⑯
第 32 回	インターンシップ㉚	担当業務の実践⑰
第 33 回	インターンシップ㉛	担当業務の実践⑱
第 34 回	インターンシップ㉜	総合実践・就業力向上
第 35 回	インターンシップ成果報告会・振り返り・自己評価と今後の課題整理	

授業の方法

インターンによる実践。

教材

必要な資料を概要説明時に配布する。

評価の方法

インターンへの参加意欲 20%、企業の評価 50%、レポート提出 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、受入先の業務内容や業界動向について調べるとともに、ビジネスマナーや安全管理、動物の飼育管理に関する基礎知識を復習する。事後学習では、実習日誌や記録を整理し、実習で得た知識・技術や課題を振り返ることで理解を深め、今後の学習や就職活動に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、インターンシップにおける職業意識の形成や社会人基礎力の向上を支援するとともに、実習経験を将来の進路選択や就職活動につなげるための指導を行う。

特別活動 II

授業の目的・概要

学校行事への参加を通じて、専門分野への理解を深めるとともに、協調性や主体性、社会性を養う。各種行事における事前準備、参加、振り返りを通じて学びを深化させ、将来の職業人として必要な資質の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	林
コース	全ゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・学校行事の目的や意義を理解し、主体的に参加できる。
- ・行事を通じて専門分野への理解を深め、学びを実践に結び付けることができる。
- ・他者と協力しながら活動に取り組み、協調性や社会性を身に付ける。
- ・行事で得た経験を振り返り、自己の成長や課題を今後の学習・進路選択に活かすことができる。

授業計画

- 第 1 回 特別活動の目的と年間計画の理解
- 第 2 回 学校行事に参加する意義と学習目標の設定
- 第 3 回 研修旅行事前学習①（研修目的の理解）
- 第 4 回 研修旅行事前学習②（訪問先・業界研究）
- 第 5 回 研修旅行事前学習③（グループ活動計画の作成）
- 第 6 回 研修旅行事前学習④（安全管理・マナーの確認）
- 第 7 回 研修旅行事前学習⑤（事前調査の共有）
- 第 8 回 研修旅行への参加
- 第 9 回 研修旅行振り返り①（体験内容の整理）
- 第 10 回 研修旅行振り返り②（学習成果の共有）
- 第 11 回 校外実習事前学習①（実習目的の理解）
- 第 12 回 校外実習事前学習②（実習先研究）
- 第 13 回 校外実習事前学習③（安全管理とマナー）
- 第 14 回 校外実習事前学習④（学習課題の設定）
- 第 15 回 校外実習への参加
- 第 16 回 校外実習振り返り①（活動内容の整理）
- 第 17 回 校外実習振り返り②（成果と課題の分析）
- 第 18 回 KAP エキスポ事前学習①（イベントの目的と業界動向の理解）

- 第 19 回 KAP エキスポ事前学習②（企業研究・出展内容の確認）
- 第 20 回 KAP エキスポ事前学習③（見学計画の作成）
- 第 21 回 KAP エキスポ事前学習④（質問事項の作成）
- 第 22 回 KAP エキスポへの参加
- 第 23 回 KAP エキスポ振り返り①（見学内容の整理）
- 第 24 回 KAP エキスポ振り返り②（学習成果の共有）
- 第 25 回 卒業研究発表会事前学習①（研究テーマの理解）
- 第 26 回 卒業研究発表会事前学習②（発表の着眼点と評価方法）
- 第 27 回 卒業研究発表会事前学習③（専門知識の整理）
- 第 28 回 卒業研究発表会への参加
- 第 29 回 卒業研究発表会振り返り・学習成果の共有
- 第 30 回 年間活動の総括（自己評価・今後の目標設定）

授業の方法

演習形式で進めていき、グループワークや意見交換を積極的に取り入れていく。

教材

特にないが、必要に応じて資料を配布していく。

評価の方法

授業への参画 30%、成果発表 50%、レポート提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、各行事の目的や内容、関連する業界・専門知識について調査し、学習課題を明確にする。事後学習では、活動記録やレポートを作成し、得られた知識や気づきを整理するとともに、自身の成長や課題を振り返り、今後の学習や進路形成に活かす。

実務経験と授業科目の関係

教育・研究に従事するとともに、大学生の進路指導やキャリア支援に携わった経験を有する。本授業では、その経験を活かし、各種学校行事への参加を通じた主体的な学びや職業意識の形成を支援する。また、活動前後の目標設定や振り返りを通じて、行事で得た経験を自己成長やキャリア形成につなげられるよう指導を行う。

動物関連法規学Ⅱ

授業の目的・概要

本授業は、動物や野生生物を取り巻く各種法規制を体系的に理解し、動物業界における法令遵守の意識と実践的判断力を養うことを目的とする。外来生物法を中心に、外来種の定義や導入経路、特定外来生物の規制内容、罰則について学ぶとともに、ワシントン条約や種の保存法を通じて国際的・国内的な希少種保護の仕組みを理解する。また、鳥獣保護法、漁業法、水産資源保護法などの関連法規についても学び、生物多様性の保全と人間活動の調整について総合的に考察する力を育成する。これにより、現場で適切な判断ができる専門的知識の習得を目指す。

科	生命科学科	教員	井田 竜馬
コース	ショップゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

前期

外来生物法、ワシントン条約などについて理解できる。

後期

種の保存法、鳥獣保護法、漁業系の法律などについて理解できる。

授業計画

- 1回 外来種と外来生物 (1) 言葉の定義
- 2回 外来種と外来生物 (2) 導入経路 その1
- 3回 外来種と外来生物 (3) 導入経路 その2
- 4回 外来生物法 (1) 施行年、目的など
- 5回 外来生物法 (2) 特定外来生物 その1
- 6回 外来生物法 (3) 特定外来生物 その2
- 7回 外来生物法 (4) 特定外来生物 その3
- 8回 外来生物法 (5) 未判定外来生物、種類名証明書が必要な生物
- 9回 外来生物法 (6) 罰則
- 10回 ワシントン条約 (1) 日本語と英語の正式名称
- 11回 ワシントン条約 (2) 条約の成立背景、プロフィールなど

- 12回 ワシントン条約 (3) レッドリストとの違い
- 13回 ワシントン条約 (4) 留保
- 14回 ワシントン条約 (5) 附属書Ⅰについて その1
- 15回 ワシントン条約 (6) 附属書Ⅰについて その2
- 16回 ワシントン条約 (7) 附属書Ⅱ、附属書Ⅲ
- 17回 種の保存法 (1) 法律の概要
- 18回 種の保存法 (2) 国内希少野生動植物種 その1
- 19回 種の保存法 (3) 国内希少野生動植物種 その2
- 20回 種の保存法 (4) 国内希少野生動植物種 その3
- 21回 種の保存法 (5) 国際希少野生動植物種 その1
- 22回 種の保存法 (6) 国際希少野生動植物種 その2
- 23回 種の保存法 (7) 国際希少野生動植物種 その3
- 24回 種の保存法 (8) 緊急指定種
- 25回 鳥獣保護法 (1)
- 26回 鳥獣保護法 (2)、
- 27回 漁業法 (1)
- 28回 漁業法 (2)
- 29回 水産資源保護法 (1)
- 30回 水産資源保護法 (2)

授業の方法

講義

教材

テキスト、自作のプリント

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

1回1回の授業ノートに関してポイントを各自纏めなおし、随時チェックする。

実務経験と授業科目の関係

長らくペットや野生動物分野の許認可を含む法律事務に関わる業務を行っており、ペットビジネスのサポ

ートを行っている。それらの経験を下地に、プロとして動物に関わっていくために必要な知識などを解説していく。

グルーミング概論・実習Ⅱ

授業の目的・概要

本実習は、グルーミングに必要な基礎技術と安全な犬の取り扱い方法を習得し、現場で求められる実践力を養うことを目的とする。体調チェックを含む健康管理を基礎として、ブラッシング、シャンプー、ドライイング、死毛除去、部分カットなどの技術を段階的に学ぶ。小型犬から大型犬まで多様な犬種を扱うことで、犬種や毛質、体格に応じた適切な作業方法を理解する。また、複数人での作業から一人での施術へ移行することで、作業手順や時間管理、安全管理能力を身につける。さらに、ライセンス試験や反復練習を通じて、グルーマーとして必要な技術力と実践的対応力の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	福田 玲奈・草刈 祐子
コース	ショップゼミ	教員の実務経験	トリマー1年
対象年次	2年	年間単位数	5単位

目標

前期

犬に負担がかからないようにグルーミングが出来るスキルを習得する。
中型犬・大型犬・動き回る犬の保定が出来るようになる。

後期

1人で1頭仕上げる事が出来るようになる。
ベーシックマスターライセンスを取得する。(チワワ 90分・ダックスフンド、パピヨン 105分以内)

授業計画

1週	グルーミング実習(2人で1頭) 体調チェック～リボンつけ	小型犬 130分
2週	グルーミング実習(2人で1頭) 体調チェック～リボンつけ	小型犬 120分
3週	グルーミング実習(2人で1頭) 体調チェック～リボンつけ	小型犬 110分
4週	グルーミング実習(2人で1頭) 体調チェック～リボンつけ	小型犬 100分
5週	グルーミング実習(1人で1頭) 体調チェック～リボンつけ	小型犬 130分
6週	グルーミング実習(1人で1頭) 体調チェック～リボンつけ	小型犬 120分
7週	グルーミング実習(1人で1頭) 体調チェック～リボン付け	小型犬 110分
8週	グルーミング実習(1人で1頭) 体調チェック～リボン付け	小型犬 100分
9週	グルーミング実習(1人で1頭) 体調チェック～リボン付け	チワワ 90分
10週	グルーミング実習(1人で1頭) 体調チェック～リボン付け	ダックス 115分
11週	グルーミング実習(2人で1頭) 体調チェック～リボン付け	中型犬死毛取り
12週	グルーミング実習(2人で1頭) 体調チェック～リボン付け	中型犬死毛取り復習

13週	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬死毛取り、ドライング
14週	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬ドライング復習
15週	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬 200分
16週	前期試験、グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬 190分
17週	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬 180分
18週	試験返却、試験の振り返り、グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬 170分
19週	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬 160分
20週	グルーミング実習（2人で1頭）	体調チェック～リボン付け	中型犬 150分
21週	グルーミング実習（3人で1頭）	体調チェック～リボン付け	大型犬 250分
22週	グルーミング実習（3人で1頭）	体調チェック～リボン付け	大型犬 240分
23週	グルーミング実習（3人で1頭）	体調チェック～リボン付け	大型犬 230分
24週	グルーミング実習（3人で1頭）	体調チェック～リボン付け	大型犬 220分
25週	グルーミング実習（3人で1頭）	体調チェック～リボン付け	大型犬 210分
26週	グルーミング実習（3人で1頭）	体調チェック～リボン付け	大型犬 200分
27週	グルーミング実習・ライセンス試験（2週に分けて実施）①チワワ 90分		
28週	グルーミング実習・ライセンス試験（2週に分けて実施）②チワワ 90分		
29週	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～リボン付け、お尻カット	
30週	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～お尻カットの復習	
31週	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～お尻カット、お腹下カット	
32週	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～お腹下カットの復習	
33週	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～お腹下カット、前肢飾り毛カット	
32週	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～前肢飾り毛カットの復習	
33週	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～前肢飾り毛カット、胸カット	
34週	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～胸カットの復習	
35週	グルーミング実習（1人で1頭）	体調チェック～下周りカットの復習	

授業の方法

ブリーダーやモデル犬の様々な犬種を使用し実技実習を行う

教材

グルーミング用品・講義プリント(下回りカットの方法)

評価の方法

定期試験（実技）30%、授業態度（意欲態度 30%、言葉遣い 10%、犬の扱い方 30%）70%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

ハサミの動かし方を自宅で練習しながら、イメージトレーニングを行う。

グルーミングの手順や掃除の手順、消毒の希釈方法をレポート用紙に書き出し整理する。

実務経験と授業科目の関係

トリミングサロンにて1年間トリマーとして勤務。技術的な指導はもちろん、接客のスキルも学生に教授することができる。

ドッグトレーニング概論・実習Ⅱ

授業の目的・概要

本実習は、犬との適切な関係構築と生活管理に必要な知識および実践力を身につけ、飼い主支援や動物福祉の視点からトレーニングを理解することを目的とする。犬のボディランゲージやストレスサインの把握、ハウスマナーやトイレ・ハウストレーニングを通して、家庭犬としての基礎的な生活行動の指導方法を学ぶ。また、多頭飼育やハンディキャップのある犬、子供との共生など多様な家庭環境への対応について理解を深める。さらに、問題行動の予防や修正、犬具の適切な使用、シニア期のケアやQOL向上のための活動を通じて、犬の生涯にわたる福祉と適正な飼育支援ができる実践力を養う。

科	生命科学科	教員	高山美左
コース	ショップゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位数	2単位

目標

1学期

人と犬との生活について必要なハウスマナーの構築、教え方を理解することができる。

2学期

人と犬との暮らしのQOLを考え、クライアントに提供する知識、技術を得ることができる。

授業計画

第1週 実習の諸注意の確認、犬の散歩等の管理と取り扱いの確認、班分け、担当犬決め

第2週 犬のボディランゲージ、ストレスサイン、カーミングシグナルの確認

第3週 人と犬との生活について、ハウスマナー

第4週 トイレトレーニング・ハウストレーニング

第5週 犬の去勢と避妊について

第6週 多頭飼育について

第7週 ハンディキャップのある犬との暮らし方

第8週 子供のいる家庭での犬との関係づくり1

第9週 子供のいる家庭での犬との関係づくり2

第10週 嫌悪刺激によるトレーニングの弊害と動物虐待、暴力の連鎖

第11週 犬の飼い主の為のリーダーシップ教育とは

第12週 飼い主のモラルとマナーについて

第13週 犬との関係の構築

第14週	リードプログラム
第15週	前期のまとめ
第16週	テスト
第17週	テスト
第18週	テスト返し・解答
第19週	リードプログラムの確認
第20週	犬具の取り扱いについて
第21週	トレーニング用犬具の使い方
第22週	甘噛み、いたずら噛み防止
第23週	吠える犬の分類と防止
第24週	飛びつき、人との挨拶
第25週	散歩のルールとマナー
第26週	拾い食い防止
第27週	犬の健康と行動の関係
第28週	犬のボディコンディショニング
第29週	犬のシニア期における行動の変化
第30週	シニア期のトレーニング・まとめ
第31週	テスト
第32週	テスト
第33週	テストの振り返り
第34週	犬のQOL1（ドッグスポーツ・グッドシチズンテスト）
第35週	犬のQOL2（犬と一緒に出掛ける、車に乗る、電車やバスに乗る、旅行に行く等）

授業の方法

座学 実技実習

教材

テキスト、DVD、犬具、トレーニング用具等

評価の方法

試験 80%、実習記録ファイル提出 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

実習犬の散歩等を通しての犬の管理や取り扱い

実務経験と授業科目の関係

あり、陽性強化法を用いた訓練を通し、正しい犬との関係性の構築の仕方を教える

ショップゼミ演習

授業の目的・概要

本授業は、校内ペットショップの運営を題材として、POP やポスター、チラシなどの制作および店舗装飾を通じて、実践的な企画力・表現力・協働力を身につけることを目的とする。デザインの基本や情報整理の方法を学び、商品やサービスの魅力を効果的に伝える力を養う。また、グループワークやプレゼンテーションを通して、他者と協力しながら課題解決に取り組む姿勢やコミュニケーション能力を育成する。さらに、実際の店舗運営を想定した活動を行うことで、現場で求められる実践的な判断力と表現力の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	津田
コース	ショップゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2 年次	年間単位数	3 単位

目標

- ・POP やポスター、チラシなどを活用して商品の魅力を分かりやすく表現できる。
- ・目的に応じたデザインやレイアウトを考え、効果的な販促物を制作できる。
- ・グループで役割を分担し、協力しながら課題に取り組むことができる。
- ・制作物や企画内容をプレゼンテーションで分かりやすく伝えることができる。

授業計画

第 1 週	オリエンテーション（授業説明・評価方法・ショップ見学）
第 2 週	ショップゼミとは（役割と目的の理解）
第 3 週	店舗装飾の基本（POP・ポスターの基礎）
第 4 週	デザインの基本（色・レイアウト）
第 5 週	POP 作成練習①（手書き基礎）
第 6 週	POP 作成練習②（文字の見せ方）

第 34 週 最 終 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン

第 35 週 総まとめ・振り返り

授業の方法

講義形式による説明の機会は設けるが、主として演習・実習形式で進めていく。

教材

特に指定はしないが、必要な資料等は講義中に配布していく。

評価の方法

成果発表 40%、課題への取り組み 30%、授業への参画 30%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、POP やポスター、チラシの優れたデザイン事例を調べ、色使いやレイアウト、文字の見せ方などの基礎知識を理解する。また、課題テーマに関連する情報を整理し、制作の方向性を考えておく。
事後学習では、授業で制作した作品や発表内容を振り返り、改善点を整理することで、次回の制作に活かし、表現力やデザイン力の向上を図る。

実務経験と授業科目の関係

ペットショップ店長としての実務経験を持つ教員が担当することで、現場で実際に求められる POP 制作や店舗装飾の工夫、販売促進の視点を踏まえた指導を受けることができる。実際の売場運営の経験に基づいた具体的な助言により、実践的で効果的な表現力や企画力の習得につながる。

ショップゼミ特殊演習

授業の目的・概要

本授業は、ショップ運営を通して実践的な接客力・企画力・運営力を養い、動物業界で必要となる総合的な実務能力を身につけることを目的とする。ショップ実習室の準備・運営・管理を通じて、店舗運営の流れや売上向上に向けた工夫を実践的に学ぶ。また、POP やチラシ作成、SNS を活用した宣伝活動を行い、販売促進や情報発信の方法を理解する。さらに、就職活動対策やグループディスカッション、卒業研究発表会の準備を通じて、主体性・協調性・表現力を養う。研修旅行や職種理解を通じて将来の職業観を深め、社会人として必要な実践力の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	津田
コース	ショップゼミ	教員の実務経験	ペットショップ6年
対象年次	2年次	年間単位数	4単位

目標

前期

- ・就職に向けて、専門学校の強みは何か、授業はなんのためにあるのか、自分はどのような人間か、自分が目指す企業はどんな企業かを調べ、理解し、話せるようになる。
- ・ショップ実習室では、ショップ運営に必要なものとはなにかを理解し、実際に行動する。

後期

- ・動物や自分の研究したことを人に伝えるということを意識して、グループごとに調べて人前で話すことができるようになる。
- ・ショップ実習室では、売上をあげることを意識したショップ運営を行い、実際に前期よりも売り上げを上げることができる。

授業計画

- 1回 ショップゼミについて・卒業研究発表会について・ショップ実習室について
- 2回 就活について・ショップゼミの担当決め・ショップ実習室準備・運動を通して体力作り
- 3回 就活について・卒業研究発表会のメンバーや内容決め・POPの作成・運動を通して体力作り
- 4回 面接対策・卒業研究発表会の計画・ショップ実習室準備・面談・運動を通して体力作り
- 5回 面接対策・ショップ実習室の4月5月の振り返り・ショップ実習室準備・運動を通して体力作り
- 6回 グループディスカッション練習・ショップ実習室の準備・運動を通して体力作り

- 7回 グループディスカッション練習・ショップ実習室の準備・運動を通して体力作り
- 8回 ショップ実習室の運営と準備・6月のショップ実習室の振り返り
- 9回 ショップ実習室の運営と準備・卒業研究発表会の進捗確認・運動を通して体力作り
- 10回 ショップ実習室の運営と準備・ショップ実習室夏休み前の管理・卒業研究発表会の進捗確認
- 11回 ショップ実習室の運営と準備・POPについて・運動を通して体力作り
- 12回 ショップ実習室の運営と準備・POPの作成・運動を通して体力作り
- 13回 ショップ実習室の運営と準備・チラシについて・運動を通して体力作り
- 14回 ショップ実習室の運営と準備・チラシ作成・運動を通して体力作り
- 15回 前期の振り返り
- 16回 仕事内容理解①—就職先に想定される職種（含 研修旅行事前学習）
- 17回 仕事内容理解②—職種別業務内容（含 研修旅行事前学習）
- 18回 仕事内容理解③—1日の仕事の流れ（含 研修旅行事前学習）
- 19回 仕事内容理解④—必要な知識・技術・姿勢（含 研修旅行事前学習）
- 20回 研修旅行事後学習①—仕事内容の整理
- 21回 研修旅行事後学習②—仕事のやりがい・大変さ
- 22回 研修旅行事後学習③—自分との適性を考える
- 23回 ショップ実習室の運営と準備・SNSの作成と宣伝・運動を通して体力作り
- 24回 ショップ実習室の清掃と運営・卒業研究発表会の進捗確認・運動を通して体力作り
- 25回 ショップ実習室の運営と管理・各就職先の強みや就職後に備えてのリサーチ
- 26回 ショップ実習室の運営と管理・グループワーク(売り上げを上げるためには)
- 27回 ショップ実習室の運営と管理・グループワーク(店舗を経営する場合)
- 28回 ショップ実習室の運営と管理・後期の振り返り
- 29回 ショップ実習室の運営と管理・年間売り上げの確認と反省
- 30回 ショップ実習室の運営と管理・大掃除と撤去作業

授業の方法

グループディスカッション・実習

教材

なし

評価の方法

試験 80%、平常点 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

ベットショップにて POP や売り場作成を随時チェックする

実務経験と授業科目の関係

あり

アクアリウム学

授業の目的・概要

本授業は、水族館業界への就職を目指す学生を対象に、水生生物の基礎知識とアクアリウム管理の基本技術を身につけることを目的とする。魚類や海獣などの生態、水槽設備の仕組み、水質管理、給餌、清掃、健康管理など、水族館で必要となる基礎的な知識と技術を分かりやすく学ぶ。また、水槽レイアウトや展示方法、接客対応、イベント運営などを通じて、水族館スタッフとして必要な実践的な考え方を理解する。さらに、環境問題や生物保全についても学び、水生生物を扱う職業人としての責任感や協調性を養う。水族館で働くための基礎力と職業意識の向上を目指す。

科	生命科学科	教員	藤原
コース	ショップゼミ	教員の実務経験	・
対象年次	2 年次	年間単位数	2 単位

目標

- ・ 魚類や水生生物の基本的な特徴や飼育方法を理解できる。
- ・ 水槽管理や清掃、水質管理などの基本作業を安全に行うことができる。
- ・ 水族館スタッフとして必要な接客マナーやコミュニケーション能力を身に付ける。
- ・ 水生生物の命を預かる責任感と、協力して作業を行う姿勢を身に付ける。

授業計画

第 1 週	オリエンテーション
第 2 週	水族館の仕事について知ろう
第 3 週	魚の名前と特徴を覚えよう
第 4 週	海水魚と淡水魚の違い
第 5 週	水槽のしくみについて
第 6 週	ろ過装置の役割と種類

第 7 週	水	温	と	水	質	管	理	の	基	本
第 8 週		魚	の	健	康	チ	ェ	ッ	ク	
第 9 週		魚	の	エ	サ	に	つ	い	て	
第 10 週	水	槽	の	掃	除	と	管	理	方	法
第 11 週		魚	の	病	気	と	予	防		
第 12 週	水	族	館	で	人	気	の	生	き	物
第 13 週	ペン	ギン	・	ア	ザ	ラ	シ	な	ど	海
第 14 週	接	客	と	お	客	様	対	応	の	基
第 15 週	前期の振り返り									
第 16 週	オ	リ	エ	ン	テ	ー	シ	ョ	ン	
第 17 週	水	族	館	の	バ	ッ	ク	ヤ	ード	に
第 18 週	展	示	水	槽	の	作	り	方		
第 19 週	水	草	と	レ	イ	ア	ウ	ト	の	基
第 20 週	魚	の	導	入	方	法	と	注	意	点
第 21 週	繁	殖	に	つ	い	て	学	ば	う	
第 22 週	日	本	の	川	や	海	の	生	き	物
第 23 週	世	界	の	珍	し	い	魚	と	生	き
第 24 週	環	境	問	題	と	海	の	未	来	
第 25 週	水	族	館	の	イ	ベ	ン	ト	に	つ
第 26 週	生	き	物	の	解	説	方	法	を	学
第 27 週	安	全	管	理	と	清	掃	に	つ	い
第 28 週	チ	ーム	ワ	ーク	と	コ	ミュ	ニ	ケー	シ
第 29 週	就	職	に	向	け	た	心	構	え	
第 30 週	1年間のまとめ									

授業の方法

講義形式

教材

講義中に適宜プリントを配布する。

評価の方法

試験 60%、課題 20%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習では、授業で扱う魚類や水生生物、水情設備に関する基礎用語や特徴を調べ、授業内容を理解しやすいよう準備を行う。事後学習では、授業で学んだ飼育管理方法や水質管理、生物の特徴についてノートや資料を見直し、重要な内容を整理することで知識の定着を図る。

実務経験と授業科目の関係

-

アニマルケア概論

授業の目的・概要

本授業は、動物看護および飼育現場において必要となるアニマルケアの基礎概念と実践的知識を体系的に理解することを目的とする。動物の行動特性や健康状態の把握方法、日常的な給餌・衛生管理・ハンドリング技術を学び、適切なケアを行うための基礎力を養う。また、動物福祉の視点に基づき、ストレス軽減や環境エンリッチメントの重要性を理解するとともに、種別やライフステージに応じたケアの違いを学習する。さらに、チーム医療や飼い主対応も含めた総合的な動物ケア能力の育成を図る。

科	生命科学科	教員	荻野
コース	ショップゼミ	教員の実務経験	ペット系企業経営
対象年次	2 年次	年間単位数	1 単位

目標

- ・動物の行動や健康状態を観察し、基本的なアニマルケアを実践できる
- ・給餌・衛生管理・ハンドリングなどの日常ケア技術を身に付ける
- ・動物福祉の観点から適切な飼育環境やストレス軽減方法を説明できる
- ・種やライフステージに応じたケアの違いを理解し、適切に対応できる

授業計画

- 第1週 オリエンテーション（授業概要・動物ケアの意義）
- 第2週 動物ケアの基本概念（ケア・福祉・管理の違い）
- 第3週 動物福祉の基本原則
- 第4週 動物の行動理解①（本能行動・学習行動）
- 第5週 動物の行動理解②（ストレス行動・問題行動）
- 第6週 動物の観察方法
- 第7週 健康状態の基本評価

第 8 週	日常ケアの基礎①（給餌・給水）
第 9 週	日常ケアの基礎②（清掃・環境整備）
第 10 週	ハンドリング技術の基礎
第 11 週	保定方法と安全管理
第 12 週	ストレス管理と環境エンリッチメント
第 13 週	感染症予防と衛生管理
第 14 週	動物の栄養管理の基礎
第 15 週	中間まとめ・実技確認
第 16 週	動物種別ケアの違い
第 17 週	犬のケア実践
第 18 週	猫のケア実践
第 19 週	小動物のケア実践
第 20 週	高齢動物のケア
第 21 週	幼齢動物のケア
第 22 週	リハビリ・補助ケアの基礎
第 23 週	行動修正とトレーニング基礎
第 24 週	飼育環境デザイン①
第 25 週	飼育環境デザイン②（改善）
第 26 週	チームケアと連携（動物看護・飼育員連携）
第 27 週	飼い主対応・インフォームドケア
第 28 週	動物福祉事例研究
第 29 週	総合ケア実習（シミュレーション）
第 30 週	まとめ・最終評価・振り返り

授業の方法
講義形式

教材

必要な資料を授業中に配布する。

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習として、各回のテーマに関連する動物種の特徴やケア方法について教科書や資料を読み、基本用語や手順を整理する。事後学習として、授業で学んだ内容を振り返り、実習記録やノートにまとめることで理解を深め、実践場面を想定して知識の定着を図る。

実務経験と授業科目の関係

現場の実務と経営の双方に携わっており、その経験を通じて得た実践的な動物ケアや顧客対応、サービス品質管理の知識を授業に反映できる点が特徴である。アニマルケアは単なる飼育技術にとどまらず、飼い主満足度や動物福祉、事業運営とも密接に関わるため、現場での判断基準や経営視点を交えた指導により、実務に直結した理解を深めることができる。

エキゾチックアニマルⅡ

授業の目的・概要

エキゾチックアニマルの生態・習性・飼育管理に関する基礎知識を習得し、各動物種に応じた適切な取り扱いができる能力を身につけることを目的とする。これにより、動物関連業界への就職に必要な実践的知識の基盤を養う。

科	生命科学科	教員	伊勢 朱里
コース	ショップゼミ	教員の実務経験	ペットショップスタッフ2年
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

前期

- ・エキゾチックアニマル（チンチラ、デグー、ハリネズミ）について、分類・歴史・生態・特徴を理解するとともに、適切な飼育管理、繁殖および代表的な疾病に関する基礎知識を習得することができる。
- ・各動物種の特性に応じた取り扱いができる基礎的な判断力を身につける。

後期

- ・エキゾチックアニマル（フクロモモンガ、シマリス、プレーリードッグ、リチャードソンジリス、鳥類）についての理解を深め、より専門性の高い飼育管理および健康管理に関する知識を習得することができる。
- ・複数種に対応できる応用的な知識と判断力を養い、動物関連業界において実務に活かせる対応力を身につけることができる。

授業計画

- 1回 チンチラ①—分類、歴史について
- 2回 チンチラ②—体の特徴について
- 3回 チンチラ③—生理的な特徴について
- 4回 チンチラ④—飼育方法について
- 5回 チンチラ⑤—繁殖、病気について
- 6回 デグー①—分類、歴史について
- 7回 デグー②—体の特徴について
- 8回 デグー③—生理的な特徴について
- 9回 デグー④—飼育方法について

- 10 回 デグー⑤—繁殖、病気について
- 11 回 ハリネズミ①—分類、歴史について
- 12 回 ハリネズミ②—体の特徴について
- 13 回 ハリネズミ③—生理的な特徴について
- 14 回 ハリネズミ④—飼育方法について
- 15 回 ハリネズミ⑤—繁殖、病気について
- 16 回 フクロモモンガ①—分類、歴史について
- 17 回 フクロモモンガ②—体の特徴について
- 18 回 フクロモモンガ③—生理的な特徴について
- 19 回 フクロモモンガ④—飼育方法について
- 20 回 フクロモモンガ⑤—繁殖、病気について
- 21 回 シマリス①—分類、歴史について
- 22 回 シマリス②—体・生理的な特徴について
- 23 回 シマリス③—飼育方法について
- 24 回 シマリス④—繁殖、病気について
- 25 回 プレーリードッグ、リチャードソン・ジリス①—分類、歴史、特徴について
- 26 回 プレーリードッグ、リチャードソン・ジリス②—飼育、繁殖、病気について
- 27 回 鳥類①—種類について
- 28 回 鳥類②—特徴について
- 29 回 鳥類③—飼育について
- 30 回 鳥類④—病気について

授業の方法

講義

教材

『カラーアトラスエキゾチックアニマル 哺乳類編 第3版—種類・生態・飼育・疾病—』

著：霍野 晋吉、横須賀 誠 出版社：緑書房

『カラーアトラスエキゾチックアニマル 鳥類編 第2版—種類・生態・飼育・疾病—』

著：霍野 晋吉 出版社：緑書房

評価の方法

試験 80%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

次の単元のキーワードになると思うページ数を指定し、予め調べてノートにまとめておくことを事前学習とする。また、事後学習として、授業内容で疑問に思ったことを抽出し、自分で調べてみた結果をノートに整理しておくこと。

実務経験と授業科目の関係

ペットショップの小動物部門における実務経験を有しており、現場での飼育管理や販売、顧客対応の経験に基づき、エキゾチックアニマルに関する実践的な知識を教授する。これにより、学生の就職後を見据えた実務対応力の育成を図る。

コンパニオンキャットⅡ

授業の目的・概要

ペットのアドバイザーとして、猫の事を飼い主から質問を受けた時、わかりやすく正確にアドバイスが出来るようになる。この人（学生）に質問したら、分かり易く的確に説明してくれると、思われるようになる為に学習する。

科	生命科学科	教員	上田阿由美
コース	ショップゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位数	1単位（35）

目標

- ・ペットのアドバイザーとして、猫の事を飼い主から質問を受けた時、わかりやすく正確にアドバイスが出来るようになる。
- ・この人（学生）に質問したら、分かり易く的確に説明してくれると思われる人物になることができる。
- ・正しいブリーディング（遺伝病、血液型含む）を身に付ける。
- ・猫種のスタンダード、毛色の遺伝、老猫のケア、病気などについて理解を深めることができる。

授業計画

前期

- 1回目 ブリーディング① 正しいブリーディングの目的 猫の血液不適合（FNI）を説明する。
- 2回目 ブリーディング② 4つのブリーディング法 アウトブリード・ラインブリードの説明
- 3回目 ブリーディング③ 4つのブリーディング法 ラインブリード（遺伝病 PKD/心筋症）
- 4回目 ブリーディング④ インブリード・ハイブリード
スタンダード（オリエンタルタイプの猫種）を説明する。
- 5回目 スタンダード ハイブリードの猫種（トンキニーズ・ボンベイ・オシキャット）のスタン

ダードの説明をする。

6回目 スタンダード コピータイプの猫種（ベルシャ・エキゾチック）を説明する。

7回目 スタンダード コートの特徴のある猫種（セルカークレックス・デボンレックス・
コーニッシュレックス・スフィンクス・アメリカンワイヤーヘア・ラバー
マ）

8回目 ブリーディング⑤ 母猫の交配前管理の仕方を説明する。

9回目 ブリーディング⑥ 発情～交配までを説明する。

10回目ブリーディング⑦ 交配後の母猫の管理を説明する。

11回目ブリーディング⑧ 受精～受胎確認（母猫の体の変化）を説明する。

12回目ブリーディング⑨ 妊娠中の母猫の管理の仕方、出産準備を説明する。

13回目ブリーディング⑩ 出産前の母猫の体・行動の変化を説明する。

14回目ブリーディング⑪ 出産の流れ（出産中・産後のトラブルを説明する。

15回目ブリーディング⑫ 新生児について（人工哺乳・離乳）を説明する。

16回目 前期テスト実施

17回目 自宅課題（内容未定）

18回目 テスト返却、テストの見返りの講義する。

後期

19回目 猫のカラー（毛色）① 毛色の種類（ソリッド・バイカラー等）を説明する。

20回目 猫のカラー（毛色）② 毛色の種類（アグーチ）を説明する。

21回目 猫のカラー（毛色）③ 毛色の種類（ポイントカラー）を説明する。

22回目 猫のカラー（毛色）④ メスのみの毛色・ブラック&オレンジの遺伝を説明する。

23回目 猫のカラー（毛色）⑤ 両親の毛色が子猫にどのように表れるかを説明する。

24回目 猫のカラー（毛色）⑥ カラー遺伝のチャート表を配布して、説明する。

25回目 猫の病気 予防（ワクチネーション）を復習する。

26回目 猫の病気 飼主がより早く病気に気が付くためのポイントを説明する。

27回目 老猫のケア① 体・行動、その他の変化説明する。

- 28 回目 老猫のケア② 自宅で出来る毎日のケアの説明をする。
- 29 回目 老猫の病気 慢性腎不全・甲状腺機能亢進症等を説明する。
- 30 回目 スタンドアード 残りの猫種の説明をする。
- 31 回目 後期テスト実施
- 32 回目 自宅課題（内容未定）
- 33 回目 テスト返却、テスト見返り講義をする
- 34 回目 キャットショーについて① キャットショーの目的の説明
- 35 回目 キャットショーについて② 形式・フラットリボン・ロゼットの説明をする。

授業の方法

座学（講義）

教材

CFA 公認猫種カラープリント
緑書房「猫の教科書」

授業外での学習方法

提出物として、宿題を出す場合がある。（内容は未定）

機会があればキャットの見学

評価の方法

平常点（出席率・授業中の態度・意欲）

提出物 小テスト

前期・後期テスト

%は小テストその他で回数が決定していないので、未定です。

実務経験と授業科目の関係

昭和 52 年～純血猫種のブリーディング

平成 3 年～10 年まで、猫と犬のグルーミングサロン経営

平成 9 年～令和 4 年まで、CFA 所属「がんば神戸キャットクラブ」代表

神戸学園動物系開校から非常勤講師

平成 11 年～現在に至る CFA (U.S.A) 公認インターナショナルオールブリードジャッジ

基礎健康管理学Ⅱ

授業の目的・概要

犬、猫を中心としたエマージェンシー時の諸症状、応急処置について学び、それらの対処法、予防策について、一般的に対応可能な最低限の内容を理解する。

動物の一生涯において、ライフステージごとに関わる健康管理について学ぶ。

科目名	基礎健康管理学Ⅱ	教員	河島 英二
コース	動物看護師ゼミ	教員の実務経験	臨床獣医師 6 年
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

動物看護師コース（1 年次）に学んだバイタルチェック・一般身体検査を基礎とし、一次診療施設でも使用される X 線・超音波検査における正常画像・異常画像を識別できる。臨床現場での即戦力を目指し、採血・投薬・画像診断等の診療補助において、獣医師の指示に基づいた正確な準備・実施を行うとともに、動物の異常を察知した際は優先順位を整理して、獣医師への的確な報告（ハウレンソウ）ができる能力を養う。

授業計画

- 1 回 動物管理上のエマージェンシーとは(オリエンテーションを含む)
- 2 回 エマージェンシー状態の確認方法
- 3 回 応急処置 出血 1
- 4 回 応急処置 出血 2
- 5 回 応急処置 やけど 1
- 6 回 応急処置 やけど 2
- 7 回 応急処置 熱中症 1
- 8 回 応急処置 熱中症 2

- 9 回 応急処置 ショック 1
- 10 回 応急処置 ショック 2
- 11 回 応急処置 ショック 3
- 12 回 応急処置 骨折 1
- 13 回 応急処置 骨折 2
- 14 回 前期期末試験
- 15 回 前期期末試験返却、解説
- 16 回 応急処置 眼球突出 1
- 17 回 応急処置 眼球突出 2
- 18 回 応急処置 痙攣発作 1
- 19 回 応急処置 痙攣発作 2
- 20 回 応急処置 感電
- 21 回 応急処置 窒息
- 22 回 応急処置 誤食
- 23 回 応急処置 中毒 1
- 24 回 応急処置 中毒 2
- 25 回 グリーフケア
- 26 回 老齢動物の飼養管理
- 27 回 若齢動物の飼養管理
- 28 回 安楽死、エンゼルケア
- 29 回 後期期末試験
- 30 回 後期期末試験返却、解説

授業の方法

講義形式

教材

コンパニオン・アニマルの新健康管理学

小動物獣医看護学 小動物看護の基本と実践ガイド第3版(上・下巻)

エマージェンシーとクリチカルケアマニュアル (LLL.Seminar)

小動物の救急療法マニュアル(メディカルサイエンス社)

ペットの飼養管理 2024 (公益社団法人 日本愛玩動物協会)

イラストで見る犬の応急手当(講談社)

評価の方法

期末試験 80%、授業への参画 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

事前学習：プリント記載のキーワードを事前に調べ、ノートにまとめる。

事後学習：講義の疑問点を抽出し、調査した結果をノートに整理する。

実務経験と授業科目の関係

本授業は動物のエマージェンシー対応や応急処置を中心とする実践的内容であり、臨床獣医師としての診療経験が直接的に活かされる分野である。実際の診療現場では、出血、ショック、熱中症、痙攣発作などの急変症例に対して迅速な初期対応と的確な判断が求められるため、教員の臨床経験に基づいた具体的な症例提示や対応手順の解説は、学生の理解を大きく深めることができる。また、緊急時の優先順位判断や飼い主への説明方法など、実務的な視点を踏まえた指導により、現場対応力の育成に直結する学習が可能となる。

飼育用品概論Ⅱ

授業の目的・概要

犬、猫、爬虫類、昆虫など各動物種の飼育に必要な用品について理解することを目的とする。各用品の種類や特徴、使用目的について学び、動物の特性に応じた適切な選択および使用方法を習得する。

また、現場での活用を見据え、飼育環境の整備や顧客への提案に必要な実践的知識を身につけ、動物関連業界への就職に対応できる基礎力の養成を図る。

科	生命科学科	教員	伊勢 朱里
コース	ショップゼミ	教員の方法	ペットショップスタッフ2年
対象年次	2年	教材	1単位

目標

前期

両生爬虫類の飼育に必要な用品の種類や特徴、使用目的について理解することができる。

また、各動物の生態や特性に応じた適切な用品の選択および使用方法を習得し、飼育環境の整備に必要な基礎知識を身につける。

後期

昆虫および犬、猫の飼育に必要な用品について理解を深め、各動物種に適した用品の選択および活用方法を習得することができる。

動物の健康や福祉に配慮した飼育環境の構築ができる知識を身につける。

授業計画

- 1回 アイスブレイク/飼育用品概論Ⅰの復習
- 2回 昼行性の爬虫類
- 3回 夜行性爬虫類
- 4回 爬虫類用品：ケージ
- 5回 両生類用品：ケージ
- 6回 両生爬虫類用品：シェルター
- 7回 両生爬虫類用品：床材
- 8回 両生爬虫類用品：保温器具
- 9回 両生爬虫類用品：保冷器具
- 10回 両生爬虫類用品：ライト（紫外線）
- 11回 両生爬虫類用品：ライト（バスキング）
- 12回 両生爬虫類用品：メンテナンスについて（爪切り・温浴）
- 13回 両生爬虫類用品：給水器、餌皿

- 14 回 両生爬虫類用品：草食動物のフード
- 15 回 両生爬虫類用品：肉食・雑食動物フード
- 16 回 両生爬虫類用品：サプリメント
- 17 回 爬虫類の販売形態について
- 18 回 系統とモルフについて
- 19 回 ペット保険について
- 20 回 爬虫類の病気と診察
- 21 回 昆虫用品：カブトムシ・クワガタムシの生体について
- 22 回 昆虫用品：カブトムシ・クワガタムシの飼育
- 23 回 昆虫用品：カブトムシ・クワガタの飼育に必要な用品
- 24 回 昆虫用品：スズムシ・ヤドカリの生体について
- 25 回 昆虫用品：スズムシ・ヤドカリの飼育方法・飼育に必要な用品
- 26 回 犬猫用品：ケージ、キャットタワー
- 27 回 犬猫用品：サークル、キャリー
- 28 回 犬猫用品：食器、給水器
- 29 回 犬猫用品：おもちゃ、首輪、リード
- 30 回 犬猫用品：お手入れグッズ(歯ブラシ、爪切り)

授業の方法

講義

教材

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

試験 80%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業でまとめたノートを参考に、ペットショップや動物園等において実際の用品を観察し、各動物種に応じた用品の選択や配置について考察する。さらに、関連する資料や文献、インターネットを活用し、飼育環境に関する知識を主体的に補充する。

実務経験と授業科目の関係

総合ペットショップにおける実務経験を有しており、飼育用品の販売および顧客対応の経験をもとに、各動物種に適した用品の選択や使用方法、適切な商品提案について実務に即した指導を行う。これにより、学生の就職後を見据えた実践的な対応力の育成を図る。

動物人間関係学

授業の目的・概要

人と動物の関係について歴史的背景を踏まえながら理解を深め、日本と海外における動物観の違いについて学び、ペット動物や産業動物など、動物の役割ごとの立場を整理する。そして、動物それぞれにおける人との関わり方について考察する。さらに、動物福祉に関する諸問題を取り上げ、その現状を理解するとともに、課題に対して主体的に考える力を養う。

科	生命科学科	教員	多田
コース	ショップゼミ	教員の実務経験	-
対象年次	2年	年間単位数	1単位

目標

前期

- ・人と動物の関係の歴史的変遷について理解するとともに、ペット動物以外にも産業動物や展示動物など役割ごとの動物の立場について把握することができる。
- ・それぞれの立場における動物福祉の現状と課題について理解し、多角的な視点から捉える基礎的な考察力を身に付けることができる。

後期

- ・動物が人に与える影響（心理的・社会的効果など）について理解を深めるとともに、動物福祉に関する問題の現状を把握することができる。
- ・課題に対して自ら考え、適切な関係性や解決の方向性について主体的に考察できる応用的な思考力を身に付けることができる。

授業計画

- 1回 現代のペット事情を知る
- 2回 現代のペット問題を考えよう
- 3回 ヒトと動物の歴史(日本：はじまり)
- 4回 ヒトと動物の歴史(日本：中期)
- 5回 ヒトと動物の歴史(日本：戦後)
- 6回 ヒトと動物の歴史(世界：はじまり)
- 7回 ヒトと動物の歴史(世界：中期)
- 8回 ヒトと動物の歴史(世界：戦後)
- 9回 動物福祉・動物愛護

- 10 回 法律上での動物
- 11 回 産業動物の福祉と課題
- 12 回 実験動物の福祉と課題
- 13 回 展示動物の福祉と課題
- 14 回 野生動物の福祉と課題
- 15 回 動物が人に及ぼす影響
- 16 回 子どもと動物
- 17 回 高齢者と動物
- 18 回 罪を犯した人と動物
- 19 回 殺処分について考える
- 20 回 殺処分についての現状
- 21 回 動物虐待について考える
- 22 回 動物虐待についての現状
- 23 回 多頭飼育崩壊について考える
- 24 回 多頭飼育崩壊についての現状
- 25 回 ペットロスについて考える
- 26 回 ペットロスについての現状
- 27 回 ペットの安楽死について考える
- 28 回 ペットの安楽死についての現状
- 29 回 ペットの社会進出について考える
- 30 回 ペットの社会進出の現状

授業の方法

講義・グループディスカッション

教材

授業で使用する教材については、必要に応じて授業中に適宜配布していく。

評価の方法

試験 80%、課題への取り組み 20%で総合的に評価する。

授業外での学習方法

授業内容の復習を行い、人と動物の関係や動物福祉に関するテーマについて自らの考えを整理すること。
また、関連するニュースや資料、文献等を活用し、多角的な視点から理解を深める。

実務経験と授業科目の関係

-

両生爬虫類学 II

授業の目的・概要

本授業では、一年に学んだ基礎の延伸として、飼育に関わる両生爬虫類の多様性を学ぶ。また、後半では、両生爬虫類に関連する学術論文を輪読することで最新の研究内容を知り、研究計画の構築と論理的な考察ができるようになる。

科	生命科学科	教員	原仕大朗
コース	ショップゼミ	教員の実務経験	-
対象年次	2 年	年間単位数	1 単位

目標

前期

両生爬虫類の飼育に係る餌や繁殖を理解することができる。

多様な種の生活史を理解して、飼育現場におけるメンテナンス及びトラブル処理ができるようになる。

後期

両生爬虫類に関する文献を輪読する。

データの取得・整理・報告に関する手法に習熟し、自身も調査・研究計画を作成できるようになる。

また、問題に対する論理的考察ができるようになる。

授業計画

- 1 回 ガイダンス
- 2 回 両生爬虫類学
- 3 回 両生類の基礎
- 4 回 爬虫類の基礎 1

- 5 回 爬虫類の基礎 2
- 6 回 両生類の摂餌
- 7 回 両生類の防御
- 8 回 爬虫類の摂餌
- 9 回 爬虫類の防御
- 10 回 両生類の繁殖
- 11 回 爬虫類の繁殖
- 12 回 遺伝
- 13 回 多様性と保全
- 14 回 調査方法
- 15 回 実際の研究
- 16 回 前期試験の振り返り
- 17 回 学術文献の調べ方
- 18 回 学術文献の発表の仕方
- 19 回 輪読計画の作成
- 20 回 学術文献の輪読
- 21 回 学術文献の輪読
- 22 回 学術文献の輪読
- 23 回 学術文献の輪読
- 24 回 学術文献の輪読
- 25 回 学術文献の輪読
- 26 回 学術文献の輪読
- 27 回 学術文献の輪読
- 28 回 学術文献の輪読
- 29 回 輪読結果の総括
- 30 回 後期試験の振り返り

授業の方法

講義

教材

必要に応じて参考資料を配布する。

評価の方法

試験 80%、授業態度・出席率 20%

授業外での学習方法

生物飼育施設での飼育管理、日常生活において生き物の観察を行いながら疑問を持つ

実務経験と授業科目の関係

・

生体管理学

授業の目的・概要

前期後期を通じて動物を扱う仕事（ペットショップ、動物保護スタッフ、ふれあい施設スタッフ）や愛玩動物使用管理士資格で必要な動物飼育方法・生体管理方法を身につける。具体的には、飼育棟内小動物・鳥・家畜動物、両生爬虫類エリアの両生爬虫類のハンドリング方法や健康チェック方法、動物のケージの掃除等を実際に行いながら学び、習得する。

前期では基本的な飼育などの実技学習を通じた授業で時間内での業務を意識した生体管理を行うことを目標にする。後期では実際の職場などでも用いられる実践的学習を行うことを目標にする。

科	生命科学科	教員	伊勢 朱里 和泉 翔太
コース	ショップゼミ	教員の実務経験	○
対象年次	2年	年間単位数	2単位

目標

前期

- ・小動物のハンドリングや健康チェックを行いながら、ケージの掃除や飼育棟内の清掃を100分以内に終わらせ、効率の良い作業方法を習得する。
- ・両生爬虫類エリアの使い方や動物の特徴、飼育管理方法について学び、1つ1つの作業の必要性を理解した上で100分以内に作業を終わらせる。
- ・就職や卒業研究に役立つ基礎的なスキル・知識の習得をすることができる

後期

- ・小動物に加えて爬虫類のハンドリング、健康チェック方法もマスターし、爬虫類ならではのガラスケージなどの掃除方法も習得する。
- ・グループ内でその日の目標と反省を行いながら作業をすすめ、自分の頭で考えながら飼育管理を行う。
- ・就職や卒業研究に役立つ実践的なスキル・知識の習得をすることができる

授業計画

[前期]

- 1週 小動物飼育/ハムスターの飼育実践(体調チェック・清掃・給餌)
- 2週 両生爬虫類飼育/ヒョウモントカゲモドキ（レオパードゲッコー）飼育実践・管理
- 3週 小動物飼育/ウサギの飼育実践(体調チェック・清掃・給餌)

- 4週 両生爬虫類飼育/ニシアフリカトカゲモドキ飼育実践・管理
 5週 小動物飼育/モルモットの飼育実践(体調チェック・清掃・給餌)
 6週 両生爬虫類飼育/アオジタトカゲ飼育実践・管理
 7週 小動物飼育/フェレットの飼育実践(体調チェック・清掃・給餌)
 8週 両生爬虫類飼育/メキシコサラマンダー（ウーパールーパー）飼育実践・管理
 9週 小動物飼育/チンチラの飼育実践(体調チェック・清掃・給餌)
 10週 両生爬虫類飼育/フトアゴヒゲトカゲ飼育実践・管理
 11週 小動物飼育/デグーの飼育実践(体調チェック・清掃・給餌)
 12週 両生爬虫類飼育/アカハライモリ飼育実践・管理
 13週 小動物飼育/ハリネズミの飼育実践(体調チェック・清掃・給餌)
 14週 両生爬虫類飼育/インドホシガメ飼育実践・管理
 15週 小動物飼育/フクロモモンガの飼育実践(体調チェック・清掃・給餌)
 16週 前期試験
 17週 学校飼育小動物の品種について/課題
 18週 試験返却・試験の振り返り

[後期]

- 19週 両生爬虫類飼育/カブトニオイガメ飼育実践・管理
 20週 小動物飼育/ファンシーラットの飼育実践(体調チェック・清掃・給餌)
 21週 両生爬虫類飼育/コーンスネーク飼育実践・管理
 22週 小動物飼育/ミイアキャットの飼育実践(体調チェック・清掃・給餌)
 23週 両生爬虫類飼育/ボールパイソン飼育実践・管理
 24週 小動物飼育/セキセイインコの飼育実践(体調チェック・清掃・給餌)
 25週 両生爬虫類飼育/ニホンアマガエル飼育実践・管理
 26週 小動物飼育/文鳥の飼育実践(体調チェック・清掃・給餌)
 27週 両生爬虫類飼育/アズマヒキガエル飼育実践・管理
 28週 小動物飼育/ヤギの飼育実践(体調チェック・清掃・給餌)
 29週 両生爬虫類飼育/クレストドゲッコー飼育実践・管理
 30週 小動物飼育/アヒルの飼育実践(体調チェック・清掃・給餌)
 31週 後期試験
 32週 学校飼育両生爬虫類の品種について/課題
 33週 試験返却・試験の振り返り
 34週 両生爬虫類飼育/サバンナモニター飼育実践・管理
 35週 小動物飼育/猫の飼育実践(体調チェック・清掃・給餌)

授業の方法

講義・実習

教材

カラーアトラス エキゾチックアニマル 哺乳類編・鳥類編 その他配布資料

評価の方法

試験 80%、授業への参画 20%で総合的に判断する。

授業外での学習方法

小動物のハンドリングや健康チェック

エキゾチックアニマルⅡ、両生爬虫類Ⅱ、飼育用品概論Ⅱのノートの見直し

実務経験と授業科目の関係

ペットショップでの実務経験を有する教員が担当することで、各動物種の飼育管理方法や健康チェック、給餌・清掃など現場で必要とされる知識と技術を実践的に学ぶことができる。犬猫だけでなく、小動物・鳥類・爬虫類・両生類など多様な生体管理の経験をもとに、飼育環境づくりや取り扱い時の注意点、接客現場で求められる知識についても具体的に指導し、現場対応力の向上につなげる。